

議席獲得の共産が 予算案可決に反対

本会議では、議員が立つかどうかで賛否の意思を示す「起立採決」が予算案の採決としては2020年の6月定例会以来約3年ぶりに行われた。4月の県議選で議席を獲得した共産が補正予算案に反対したためだ。

本会議の採決は、反対者がいないことが予想される場合、議員の1人が可決の動議を出し、異議がないことを議長が確認して「全会一致で可決」となる。改選前の県議会では、この流れ

3年ぶりに起立採決

が多かった。

この日の本会議で共産の下奥奈歩議員（豊橋市）は、一般会計補正予算案のうち婚活イベント事業に関して反対の立場で討論し「結婚イコール出産という特定の結婚観を県が押しつけることになる」と主張。航空機産業の支援事業も反対した。

自民の日高章議員（大府市）は、賛成の立場で「少子化対策はこれ以上放置できない待ったなしの状況。事業を契機として多くの若者が結婚に前向きになることを期待する」などと反論。予算案は共産を除く賛成多数で可決された。